

背景

議論において文字起こしが用いられることがある

→ 議論が長引くと文字起こしの内容が多大になり、認知負荷が高くなる

関連研究

議論でリアルタイム生成される ワードクラウドを用いた効果

1. 議論内容を即座に把握/推測可能
2. 議論の発散段階を促進

→収束段階に対する調査は不十分

議論の収束段階

- 情報の選択と精緻化が重要
- 議論を重ねることで
認知の違いをすり合わせる

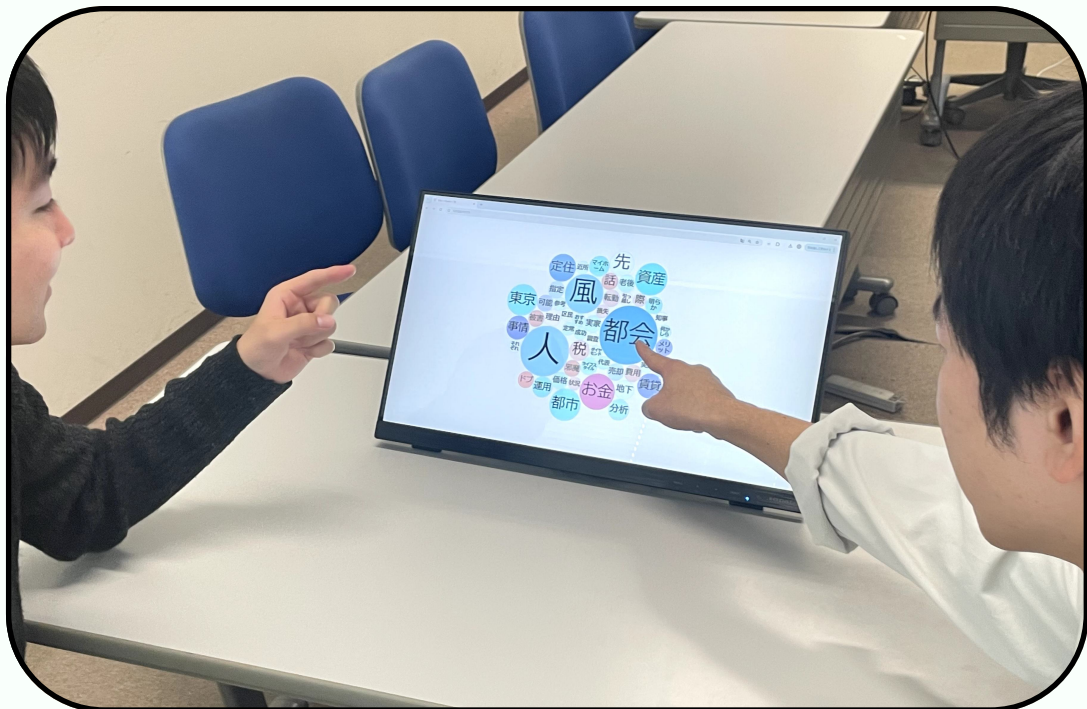
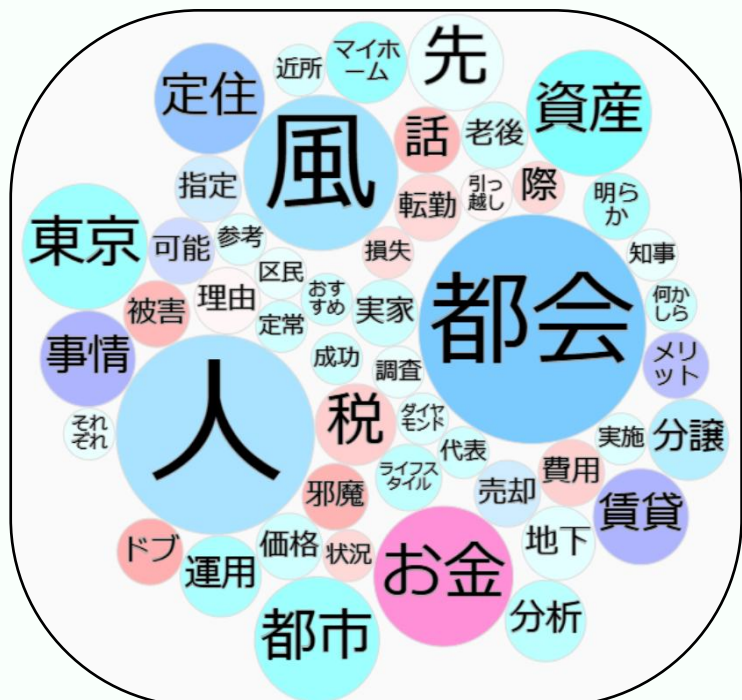
→色を用いて認知の収束を試みる

目的

創造会議における収束段階の支援

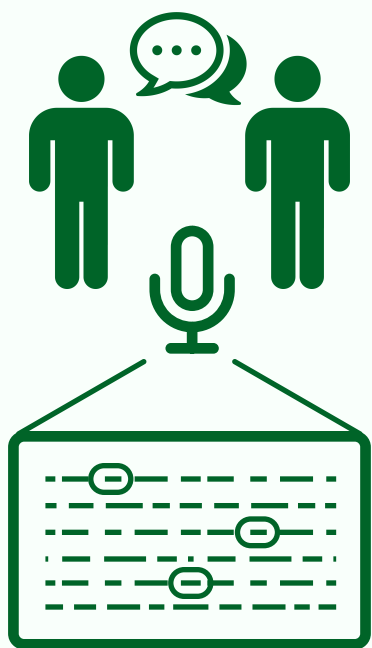
アプローチ

自動生成されるワードクラウドの 文字に文脈に基づいた色を付与

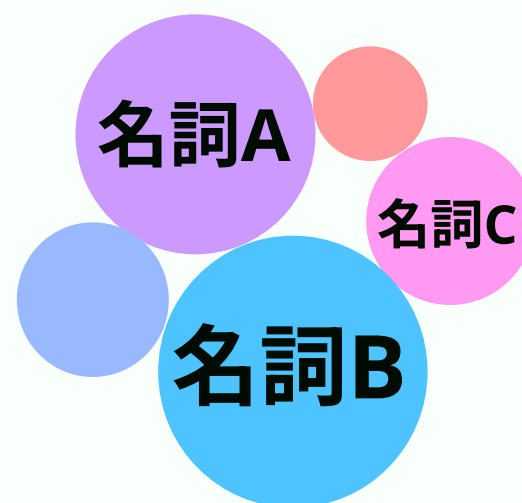


提案システムにより生成されたワードクラウドの外観
 (「都会に住むなら分譲か賃貸か」という議題についての議論をもとに生成)

システム 実装



名詞	スコア
名詞A	-8
名詞B	+4
名詞C	-2



名詞抽出

リアルタイムに文字起こし
(Google Cloud API)を行い
その結果から名詞を抽出
(kuromoji.js)

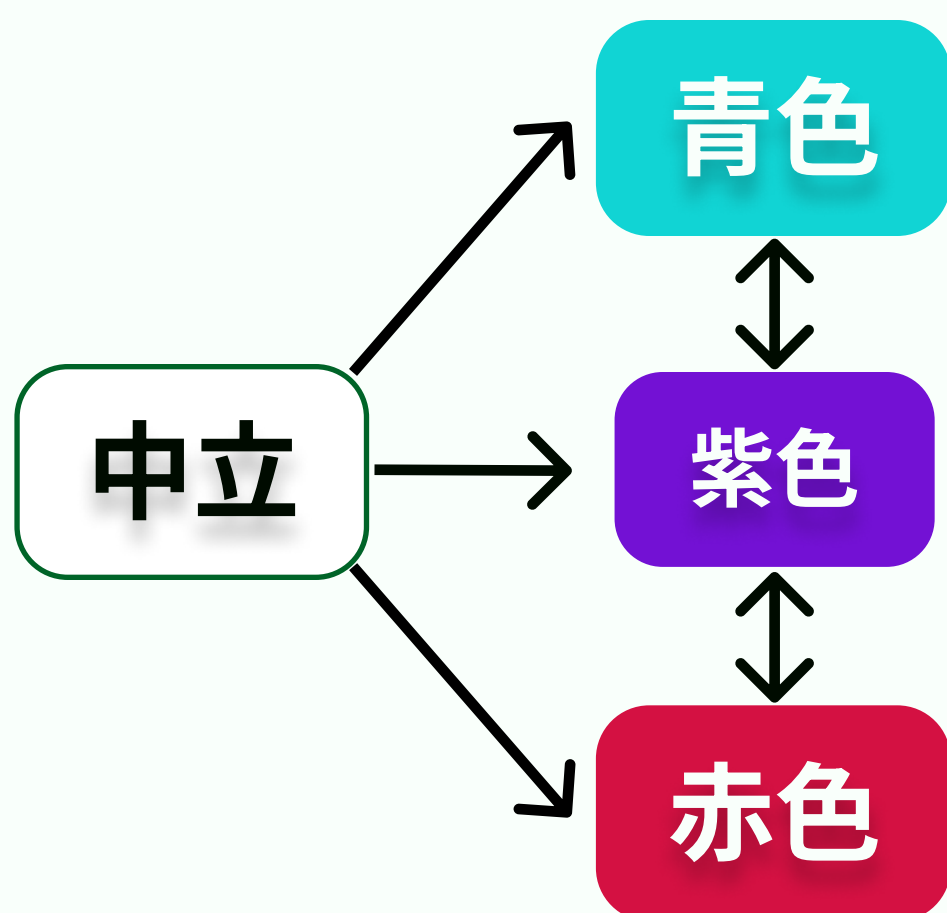
名詞解析

文字起こしと名詞抽出の
結果をもとに OpenAI API
(gpt-4o-mini)を用いて
名詞の肯定度合いを
-10から10までで評価

ワードクラウド出力

各名詞の出現回数と
肯定度合いをもとに
ワードクラウドの大きさと
色を決定しD3.jsを用いて出力

システム 色決定



名詞が肯定的に用いられた場合
「安心感」や「信頼性」といった印象を与え
ポジティブな感情を喚起するとされる
青色を用いる

名詞が肯定/否定共に用いられた場合
青と赤の中間色である紫を介し
グラデーションに色が変わる

名詞が否定的に用いられた場合
「怒り」や「攻撃性」といった印象を与え
ネガティブな感情を喚起するとされる
赤色を用いる

今後の展望

1. 評価実験の実施

色変化の有無を条件にシステムを用いた議論を行う
→所要時間, 発話量, システム評価アンケート

2. システムの改良